

ポップコーン専用品種作付けも

みんなの喜びや幸せに

すず農園 鈴木 小百合さん

静岡県袋井市

【静岡支局】夫と共に「すず農園」を営む鈴木小百合さん(48)は、袋井市などでトウモロコシ2銘柄とレタス1銘柄を栽培する。夏季は生や加熱で食べる「甘々娘」や独自ブランド「ドルチェ甘美(品種は『ドルチェドリーム』)」などのトウモロコシ甘味種195銘柄に加え、ポップコーンを作るための爆裂種5銘柄を栽培する。

爆裂種は粒が小さく、皮が硬い品種。加熱用に粒状に加工して販売するほか、芯や皮を外さずに乾燥させ、インテリアとして部屋に飾ることを鈴木さんは提案する。いったんポップコーンしか知らない人も多い。国産ポップコーンの形や味を知ってもらうため、体験イベントを計画中と話す。昨年からは、フリーアナウンサーを招いてイベント「もろこしフェス」を開催。その場で食べられるポ

ポップコーンのインテリアを提唱する鈴木さん



爆裂種は立ち枯れさせてから収穫▼

「もろこしフェス」で交流

ップコーンや焼きトウモロコシを販売し、トウモロコシの魅力を語るトークショーにも自ら登壇した。

収穫期にはオンラインショップと直売所で販売しながら、訪問客との交流も楽しむ。写真共有アプリ「インスタグラム」で積極的に情報を発信する。普段食べているトウモロコシとポップコーンの違いや、国産ポップコーンの魅力について動画や写真で紹介する。

「夫の農作業姿に感化されて就農を決意した」という鈴木さん。結婚前は農業との縁はなかったが、就農をきっかけに農業の魅力に気付いたという。「さまざまな栽培方法があり、何が最適なのか迷うこともあったが『誰かの喜びや幸せにつなげたい』という思いを大切にしながら農業に励ん



インスタを積極的に活用



すず農園のポップコーン

でいる」と話す。

おやつから学ぶ
食育の提供が目標

今後の展望について、ワークショップの開催などポップコーンを通じた食育の場づくりを掲げる。

子供たちが普段食べているおやつから学びに発展させることが目的だ。子育て中の親を孤立させないため、同じ環境にいる親同士が出会い、社会とのつながりを実感できるようサポートする役割も想定する。「私たち農家が架け橋となり、皆さんが『おいしい』『楽しい』と幸せを感じてくれたらうれしい」と笑顔で話す。(秋本、小野)